

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶（旧暦）七夕に思う

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染（COVID-19）は、二〇一九年十二月初旬から現在まで世界的な流行となり、多くの人が感染され、経済活動を始めそれぞれの分野で自粛がなされました。当会も思うような活動が出来ず、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

八月は中国で始まった年中行事の一つ、旧暦の七夕の月です。七夕伝説は漢の時代の『文選』の「古詩十九首」の第十首に「迢迢牽牛星」があります。『詩経』の小雅・大東の中には、牽牛星・織女星の名があります。しかし星の恋物語としては「古詩十九首」が最古のようです。前漢の采女が七月七日に七針に糸を通すという手芸上達を願う乞巧奠の風習からも発展して日本に伝わって来ました。

天の川 見つつしをれば 白妙の
わが衣手に 露ぞ置きにける

（彦星の訪れを、今か今かと心待ちにして天の川をじっと見つめていたが、いつのまにか時が経ち、白妙のわが衣の袖に秋の夜露がしつとりと置くまでになった。待たされて、悲しくて、袖には涙がたまることだ。）

私は自肅期間に、真淵翁の愛した万葉集を読みました。七〇二年第七次遣唐使として唐（中国）に派遣された山上憶良は、多くの七夕の歌を残しました。七夕の歌の中の主なものは、牽牛と織女の星の恋物語で一年に一度の「再会」でした。

玉かぎる ほのかに見えて 別れなば
もとなや恋ひむ 逢ふ時までは

（わずかに逢っただけで別れてしまったなら、むやみに恋しく思うことだろうか。また逢う日まで）

コロナ禍は今なお予断を許しませんが、「いつかは必ず皆様にお目にかかれる」という気持ちです。私たちはこうした体験を下に当会の「出来ること」を探し、引き続き真淵翁の思いを探求したいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

賀茂真淵翁を知ろう（14）江戸での処士生活

四十一歳になり江戸に出た真淵は、荷田春満の弟信名（のぶな）宅に落ち着き、春満の養子・在満（ありまろ）と生活を始め、その後神田明神の神主芝崎好高などの家に寄寓しながら学問に専念した。

春をまつ やどりは人に よる身にも
つもる年こそ おのが物なれ

この当時の真淵は、処士（時の支配者に仕えることもない民間人の意）生活を送っていた。この歌は、“世の人ごとに四十二の歳は慎むべきという歳暮に

隅田川 人やりならぬ もろ舟も
くれぬと急ぐ けふのとし波

に続いて詠っている。

真淵四十二歳。暮を急ぐ隅田川の舟は己が姿の象徴であり、「やどりは人による身」と、四十歳を過ぎて、他家に寄宿する身のつらさがにじみでている。

真淵は、神田明神に奉納する神楽図式の序を書いたり、荷田在満の「大嘗会便蒙」の浄書をしたりして生活した。江戸に出て三年間に少なくとも五回は転居した。その間、或は食客となり、同宿となり、家庭教師となるなどと辛酸な生活をしていた。この世俗な苦労が真淵の詠歌に深みを加えたとされる。

真淵が転々とした止宿先は荷田家のゆかりの家が多かったが、後に縣門を支えた村田春海の父春道にも世話になった。日本橋小舟町の乾鰯問屋の豪商で神道家。真淵も春満から伝えられ

た「斉明紀童謡についての秘伝」を春道に伝えている。こうして教えを受けにくる人も増えた。

百人一首などの研究会に参加

○百人一首の講会 真淵四一歳の三月に江戸に出、四月には信名家でこの研究会に出席している。その後、八月の「百人一首評会満也」まで続いた。真淵の「百人一首古説」はこの会の成果という。

○万葉集の講会 翌年の真淵四十二歳の八月から翌年の六月まで研究会に参加している。後年の真淵の万葉研究の下地が養われたという。

○源氏物語の講会 この会に参加すると共に、四十四歳の正月には歌会を開くようになった。真淵の精進ぶりが認められたといえよう。

令和四年度代議員会承認事項

五月十六日に代議委員会が開かれ、次の議案について承認されました。

- （1）令和三年度事業報告
- （2）令和三年度決算報告
- （3）令和四年度事業計画
- （4）令和四年度予算

今後の主な行事予定

令和4年10月30日（日） 例大祭
令和4年11月 賀茂真淵関連施設訪問
令和5年1月1日（日） 新年祭
令和5年3月4日（土） 生誕祭
令和5年3月 郷土史を学ぶセミナー開催



令和4年度 平常展
賀茂真淵とその門流
～近世の歌文を中心として～
日本の心
言葉の力
「言葉の力」を信じた「日本の心」に触れる
前期 令和4年 5/26(木)・9/25(日)
後期 12/1(木)・令和5年 5/21(日)
浜松市立賀茂真淵記念館
一般社団法人 浜松史蹟調査顕彰会
TEL: 053-455-8000

浜松市立賀茂真淵記念館では

令和四年五月二六日～令和四年九月二五日
令和四年一二月一日～令和五年五月二一日

「日本の心」「言葉の力」をテーマに賀茂真淵とその門流の歌文を中心とした平常展が開かれています。四季折々の美しさを見せられる縣居神社への参拝と併せてお越しください。